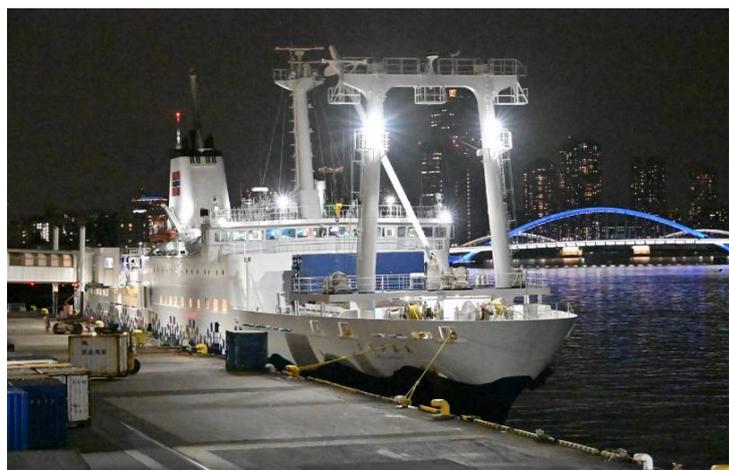


帆船日本丸友の会だより(電子版) Vol. 257 (2024.11.26)

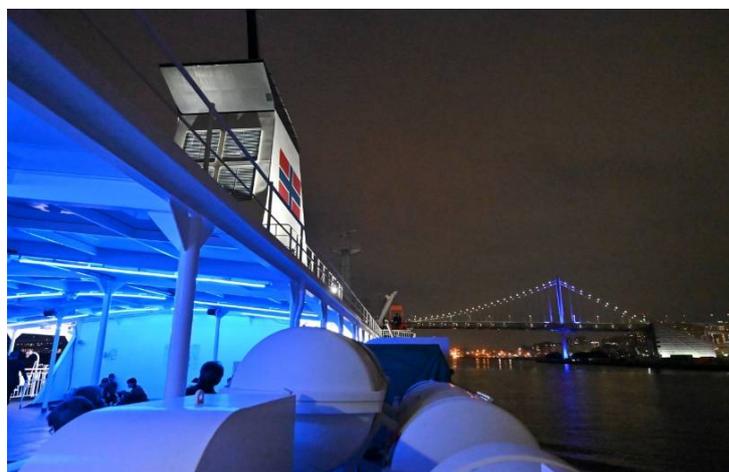
● 船旅「竹芝～神津島～下田」(2024. 11. 14～16) 石川様撮影。



乗船した「さるびあ丸」(東海汽船)



「橋丸」(東海汽船)



22:00出港 レインボーブリッジへ向かう



横浜沖を通過



特等室



特2等室



2等椅子席



特等室にて



レストランにて



船内の柳原良平アート①



船内の柳原良平アート②



大島 岡田港



利島出港



新島 前浜港



式根島 野伏港



新島～式根島 連絡船「にしき」



「あおがしま丸」



後部デッキにてスリーショット



神津島



神津島 前浜港到着（下船）



昼食の金目漬け丼（神津島）



村営バス（前浜港～多幸湾）



多幸湾（神津島）



船客待合所（神津島 多幸湾）



船客待合所内部（神津島 多幸湾）



「フェリーあぜりあ」到着



「フェリーあぜりあ」（神新汽船）



「フェリーあぜりあ」乗船前



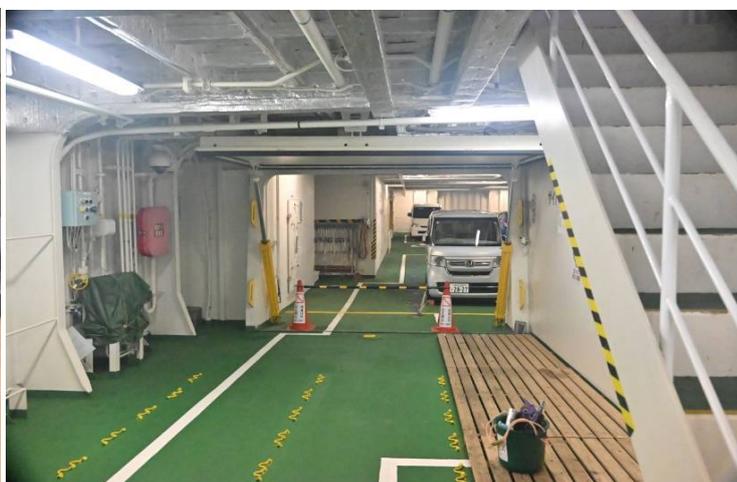
「フェリーあぜりあ」2等室



1等室



1等室にて



車両甲板



フィスタビライザー（上甲板より見る）



神子元島



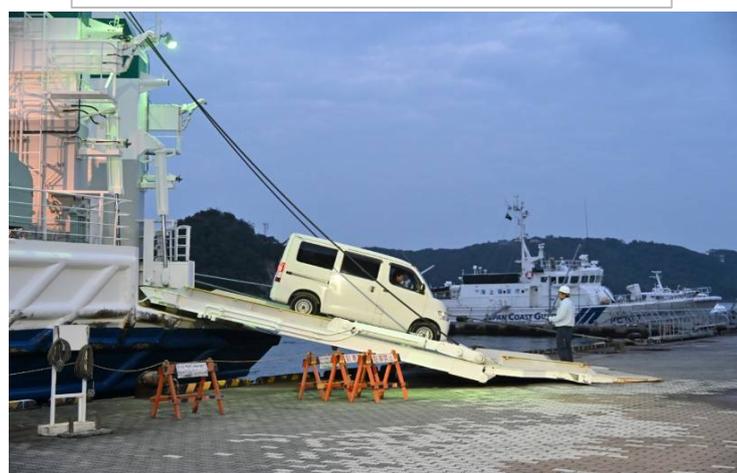
下田港



巡視艇「いずなみ」（下田海保）



下田港 神新汽船岸壁



荷役中①



荷役中②



下田の居酒屋「賀楽太」(メニュー無し)



とりあえずビール



刺身



金目の煮つけ(下田「賀楽太」)



下田→横浜「踊り子号」(JR/伊豆急)

以上

【柳原良平と私】⑭

岩崎久美子

“横浜市民と港を結びつける会”の立ち上げの時から船が好きだったので友人と共に入会して（友人は数年前に天にいきました）、その後帆船日本丸の誘致活動に協力して横浜に帆船日本丸が来ました。思い出は友の会で行った佐渡の旅行です。現地でフリータイムがあり、佐渡の歴史を展示してある会館で数人と先生と一緒に色々みたことです。物静かな感じがしました。日本丸が来て15周年の記念のテレカを発行することになり、お陰様で15周年のテレカが先生のデザインで発行され、手元にあったのですが、テレカを持ってない施設の子供に寄付をしたので手元にありません。ただ、港を結びつける会のテレカは、今もサイフの中にあります。

【柳原良平と私】⑮

ペンタックス KM

石川順一

5周年のイベントを機に日本丸友の会に入会、何年かして柳原先生の推挙があったらしく、幹事の委嘱を受けました。そして成り行きで写真担当のような形となり友の会の行事の他、日本丸や横浜港に入港する客船の写真を撮影してヤードや周年記念品のポストカード等に写真を提供しておりました。そんな時（もう27年前になりますが）、自宅が原因不明の火事に見舞われ、撮りためた写真の大半やカメラが灰燼に帰する大損害を被りました。その後しばらくしてようやく落ち着いてきた頃に船仲間の集まりで柳原先生にお目にかかった時、私に向かって差し出された先生の手には先生が愛用されていたであろうペンタックスの一眼レフカメラが。そして一言「ないと困るでしょ？」そのカメラで最初に撮ったのはロイヤルウイング船上で行われた、友の会のクリスマスのつどいでした。（デジタル化にともなって役目を終えたそのカメラは、昨年みなと博物館に寄贈いたしました。新着資料コーナーで目にされた方もいらっしゃるかもしれません）

【柳原良平と私】⑩

ただの造船屋が船旅派へ

鳥海憲彦

造船工学科の学生時代、「船の本」に出会い柳原ファンになりました。シリーズ5冊の内、「第2船の本」に書かれた貨客船「大雪山丸」の品川～釧路航路乗船記は“船に乗ること自体の楽しみ”を教えてくださいました。それ以来、長距離フェリーに乗り、その後は客船に、そして7年前に世界一周船旅を果たしました。「船の本」は、私をただの造船屋から船旅派へと変えました。1983年頃、訓練センターでパーティーがあった際、トイレに入ると偶々右隣に柳原さんがおられ、緊張で右肩に力が入りました。すると柳原さんが「日本丸（二世の建造）は順調ですか？」と話しかけてこられました。柳原さんとトイレで会話したのはこれが最初で最後です。毎年せんたあ画廊で開催された個展のパーティーは多くの船好きが集まる楽しい場でした。福山の「アンクル船長の館」に続き、大阪の「アンクル船長のギャラリー」も閉館した頃、柳原さんに「是非ヨコハマにギャラリーを」とお願いしました。すると「(作品は) 倉庫にまだ沢山あるから」と仰いました。その個展、最後は2015年、車椅子でしたが会場のアチコチへ移動され、来場者との会話が楽しそうでした。柳原さんの周りはいつも“船仲間がいっぱい!”でした。